

(様式3)

## 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成25年12月10日

### 【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	0893400010		
法人名	医療法人 久仁会		
事業所名	小規模多機能型居宅介護 ふれあいホーム虹の丘	ユニット名	—
所在地	〒319-3552 茨城県久慈郡大子町大字矢田93-1		
自己評価作成日	平成25年6月21日	評価結果 市町村受理日	平成25年12月5日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報 リンク先URL	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/08/index.php?action_kouhyou_detail_2012_021_kani=true&amp;JigyosyoCd=0893400010-00&amp;PrefCd=08&amp;VersionCd=021">http://www.kaigokensaku.jp/08/index.php?action_kouhyou_detail_2012_021_kani=true&amp;JigyosyoCd=0893400010-00&amp;PrefCd=08&amp;VersionCd=021</a>
-----------------	---

### 【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人茨城県社会福祉協議会		
所在地	〒310-8586 水戸市千波町1918番地 茨城県総合福祉会館内		
訪問調査日	平成25年8月20日	評価機関 決裁日	平成25年11月21日

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

<p>利用者一人ひとりの特徴、住んでいる環境をふまえて本人、御家族が無理なく安心して生活できるようにサービスを提供している。利用時間などもできるだけ希望に添えるよう考えている。事業所では生活しながら楽しく心身共に健康でいられるようにレクリエーション、趣味活動などに積極的に取り組んでいる。季節感を味わうドライブ、好きなものを食べて楽しむ外食、ミニ菜園などスタッフ一人ひとりが考え提供している。スタッフと利用者の関わりを沢山持つよう、また御家族ともいい関係が築けるよう考えている</p>
--

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

<p>事業所は自然に恵まれた静かな高台にあり、利用者は職員と一緒に町のよさこい祭りを見物に出かけているほか、町の雛祭りでは利用者とボランティアで飾り付けの手伝いをしたり、町の芸術祭にちぎり絵や習字、絵手紙などの利用者の作品を出展するなど、地域に根ざした取り組みをしている。</p> <p>レクリエーション担当職員の考案で牛乳パックから和紙の葉書を作り、年賀状や暑中見舞いを家族や知人に出すなど、趣味の活動に取り組み、利用者が生き生きと暮らせるように支援をしている。</p> <p>職員は把握した利用者の思いや意向を申し送りノートに記録し、利用者から聞き取った内容は赤枠、家族等から聞き取った内容は青枠で囲み、全職員で共有して意向にそった支援に取り組んでいる。</p> <p>管理者は職員とコミュニケーションを図りながら良好な関係を築き、職員は利用者に笑顔で接しながら家庭的な雰囲気の中で、その人らしい生活ができるよう支援をしている。</p>
--

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践  地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を事務室に掲示している。又、ミーティングなどで理念・方針について再確認し事業所の目標を明確にしている。	開設時に管理者と職員で話し合い、「高齢者の希望を受け入れて、柔軟なサービスで対応する。通いを中心に本人や家族の状況に合わせて継続した支援を提供する。地域の方々との関係を維持継続できるように調整する」との理念を作成している。 理念を事務所の見やすい場所に掲示するとともに、管理者や職員は申し送りやミーティングなどで確認し、共有して実践につなげている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい  利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の方が慰問に来て下さる誕生会、家族と参加する運動会、老人会の方を招いて行う流しそうめんなど地域との関わりを持つようにしている。町の恒例行事となっているよさこい祭の見学、ひな祭りの飾り作りの手伝いなど町の行事にも色々な形で参加している。	利用者と職員は町の恒例行事となっている、よさこい祭りを見物して地域の人々と交流している。 利用者はボランティアと一緒に町の雛祭りの飾り付けを手伝っている。 中学生や高校生の職場体験学習のほか、「オカリナ愛好会」や「やまびこ音楽教室」など、地域のボランティアを受け入れたり、年1回老人会と交流する機会を設けたりしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献  事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	高齢者や認知症の方々への事業所での対応や介護の知識など、区長・町内会長など地域の代表の運営委員の方に情報を提供したり、意見を交換している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み  運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	登録状況や行事、事例報告を行い外部からの貴重な意見を今後のサービスに生かせるよう努めている。地元消防団の視察、防火水槽の設置など会議での意見が反映されている。	運営推進会議は家族等の代表や区長、常会長、町職員などで2ヶ月に1回開催し、会議録を作成している。 会議では行事報告や事業所の状況報告をするほか、委員と活発な意見交換を行っている。 委員から出た意見を受けて事業所の近くに防火水槽を設置したり、消防団員の事業所見学を実施したりするなど、サービスの向上に活かしている。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に毎回町の福祉課より担当者が参加している。その他情報を交換しながら、相談・アドバイスをして頂ける信頼関係を築けるよう連絡を取るようにしている。	町担当者が運営推進会議に毎回出席している。 管理者は電話だけではなく、月1回町福祉課を訪問して町担当者と連絡を密に取り、情報交換や相談をしたりして協力関係を築くように取り組んでいる。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束については、年に一度研修の機会を持ち、適切な対応ができるようにしている。危険だからと安易に行動を抑制しないよう、全職員が考えている。家族にも説明しご理解を頂いている。	職員は年1回開催する身体拘束排除に関する内部研修を受講しているほか外部研修も受講し、禁止の対象となる身体拘束の具体的な行為を理解している。 玄関や居室は施錠せず、職員は利用者の自由な生活を支援している。 管理者は職員に安易な行動制限はしないよう周知徹底を図っている。 職員は日々のケアの中で、身体拘束をしていないかどうか確認し合い、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	どんな事例があるのか情報を提供し、自分達の役割、位置づけを確認する機会を作っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会を行い、制度について理解を深めている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得  契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際には十分利用者本人、家族の意思を伺い、又、施設側からのお願いも伝え理解して頂いている。利用開始後も疑問や不安がないかコミュニケーションをとり確認している。又、昨年度実施したアンケートでは、ご家族のサービスの理解が不十分だと知ることができ参考になった。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映  利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見や苦情の相談受付を重要事項説明書に明記し、契約時に説明している。又、連絡手帳を利用し、意見等を頂けるよう努めている。職員には何でも話しやすい関係を築けるよう指導している。	重要事項説明書に事業所と第三者機関の苦情相談受付窓口を明記し、契約時に利用者や家族等に説明している。 家族等の意見等は連絡帳を活用するほか、管理者は職員に、利用者の送迎時に家族等と話す機会を持つことにより、話し易い関係の構築に努めるよう指導をしている。 家族等の要望を受け、利用者宅の戸締りや炬燵の電源の確認をしている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映  代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のミーティングでの意見交換を始め、日常的にも意見、提案をしやすい雰囲気を作っている。又、人事考課の中でも職場に対する意見の記入欄を設け、定期的に意見の場を作っている。	月1回全職員による定例ミーティングを午後5時から開催し、職員の意見や要望を聞く機会を設けているほか、管理者は日頃から職員とコミュニケーションを図り、意見や要望を気軽に出せるような関係づくりに努めている。 職員の提案を受けてレクリエーションの物品を購入したり、寿司屋での外食や公園への外出を実施したりするなど、管理者は職員の意見や提案を運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備  代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年に1回、個別に職員面接を実施し、目標や勤務体制、仕事上の問題など、ヒアリングを行い、働きやすい職場になるよう努めている。又、日常的にも声をかけ、会話ができるよう考えている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月開く施設内研修、外部研修の伝達等への参加で、職員の質の向上を図っている。又、役割をつくり、責任感や仕事への意識を高めるようにしている。困難な介助のケースは先輩スタッフがアドバイスをしたり介護に不安なく取り組めるよう考えている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	居宅の介護支援専門委員に相談やアドバイスを頂いたり、併設の老健との交流を積極的に行い、柔軟な考え方ができるように努めている。又、町主催の勉強会へも積極的に参加し、他事業所の職員と交流ができるよう取り組んでいる。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	介護支援専門員が応対し、本人が利用にあたってどんな不安があるのかを聞き出し、一つ一つ解決しているようにしている。一人ひとり、状況も問題も違うので、その人にあった個別の対応ができることを説明している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族がどんなサービスを望んでいるのかをきちんと把握し、事業所で対応できることを説明している。家族との協力が重要なポイントになる為、すべて任されるのではなく協力し合うことを確認している。また、家族を含めたサポートができることを話している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族がどのようなサービスを必要としているのか、当事業所で満足のいくサービスを提供できるのかを見極められるよう面談している。当事業所よりもニーズにあったサービスがあれば紹介するようにしている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の特徴を把握し、日常的にしている洗濯もののたたみや、植物への水やり、簡単な掃除、テーブル拭きなどできる事を積極的に手伝って頂き、一緒に生活している雰囲気を作れる様にしている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	施設の役割とできることを説明。また家族がどこまで関われるかを確認し、家族、事業所、地域とみんなで支えていくことを確認している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	サービス利用中でも家族や知人が気軽に尋ねてこられるような雰囲気を施設全体で作っていきたい。ただ、置かれている環境が違うため、柔軟な対応が必要だと考えている。馴染みの地域、自宅での生活を続けていくためのお手伝いという事をご理解頂き、本人と一緒に支えていけるよう話し合っている。	職員は利用者の家族等や知人が来訪した時にはお茶を出し、泊まりの部屋に案内して寛げるよう支援している。 職員は地元の馴染みの理・美容師が来訪できるよう連絡調整をしている。 職員は通いの利用者の送迎時に長期泊まりの利用者も同乗してもらい、自宅付近をドライブしながら懐かしめるよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日常生活や利用者の性格などを考え、席の配置など気をつけている。又、一緒に協力して物作りをしたり、ゲームをしたり、利用者同士が馴染んでいけるよう工夫している。入浴はコミュニケーションの場になっているので気の合う人同士入って頂いている。逆に一人でゆっくり入りたい方もいるので配慮している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用終了後も経過を家族に聞いたり、さまざまな相談にのったり、利用に関係なく協力できることがあればと考えている。地域で支え合っていることを家族に感じてもらえるよう努めている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	本人が普段の生活の中でちょっとつぶやいた言葉、しぐさなど見逃さないよう気を配っている。また職員で共有できるよう記録には赤枠をつけて区別している。	職員は利用者の基本情報から生活歴や思いを把握するとともに、利用者のしぐさを観察したり、つぶやいた言葉から思いを推し測ったりして意向の把握に努めている。 意志疎通が困難な利用者の場合は送迎時に家族等から話を聞いたり、利用者のしぐさや行動などから推し測り、利用者本位の支援ができるよう努めている。 職員は把握した利用者の思いや意向を申し送りノートに記録して赤枠で囲むとともに、家族等の思いは青枠で囲み、全職員で共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握  一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人の生活歴を職員が普段の会話の中から聞き出して記録、職員全員が共有し、コミュニケーションのツールとして活用できるようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握  一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人の状態については、職員が良く観察し何か変化があればその都度報告している。自宅での様子も送迎時に家族から聞くなどしている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング  本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護職員からの意見、情報や他のサービスからの情報などを参考に職員全員でミーティングを行い、ケアの仕方について話し合っている。月に一度はモニタリングを実施し見直しの必要がないか確認している。	介護計画は全職員でミーティングを行い、支援経過記録を基に課題を把握したり、利用者や家族等の意向を取り入れたりして作成している。 毎月モニタリングを実施し、6ヶ月もしくは1年毎に介護計画を見直している。 利用者の心身の状態に変化が生じた場合は、随時現状に即した介護計画に見直している。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録は業務日誌や申し送りノートなどに記載し、朝・夕には職員間で確認することにより、情報の共有を図っている。本人の希望や思いは赤枠、家族とのやり取りは青枠にし、他の記録と区別している。個別のケア記録にも記載している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	計画したサービスだけでなく、急な変更に対応できる事を家族に伝え、できる限りの支援をしている様準備している。利用時間についても通常時間以外でも対応できるようにしている。又、利用時間中の通院や買い物などにも対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	暮らしを支援するため、福祉用具のレンタルや無償で利用できる地域のサービスなどの情報を伝えられるよう努めている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるよう支援している	利用者のかかりつけ医を把握し、必要に応じ、通院・連絡・連携をとれる様に努めている。受診の際には、文章等で様子の変化を報告している。母体が医療法人でもかかりつけ医の変更をお願いすることはない。	契約時に利用者や家族等にかかりつけ医を確認している。 受診は基本的に家族等が付き添っているが、泊まりの利用者の受診や通いの利用者の急変時、家族等の都合が悪い場合には職員が受診支援をしている。 家族等が受診に付き添う場合のほか、職員が付き添う場合でも、利用者のバイタルサインや排泄の回数、事業所での様子を記載した情報提供書を準備するとともに、受診結果は送迎時などに家族等に報告している。 歯科医師の訪問診療も可能であり、緊急時を含めて適切な医療が受けられるよう支援している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるよう支援している	看護師は看護業務にとどまらず、介護職員と同じ仕事をする事により、日常的に関わる事ができ、変化にもすぐ気が付き対応できる。又、通院・入院などの際にはかかりつけ医に情報を提供している。		



☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、施設での利用状況など、サマリーを送り情報を提供している。又、入院中、退院の前に訪問し、本人の状態を確認し、退院後のサービス利用を相談している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期に向けた方針を利用者や家族に説明し、今の状態と今後起こりうる変化について話し合い、対応や家族の希望を確認している。	重要事項説明書に重度化や終末期に向けた方針を明記し、契約時に利用者や家族等に説明している。 現在までに終末期に近い利用者はいたが、看取りの経験はない。 重度化や終末期の支援について職員会議で話し合うとともに、終末期には運営母体の医療機関の医師や家族等と十分に話し合い、チームを結成して取り組む体制を整えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	特に危険性のある利用者については予想できる変化、対応を家族を含め確認している。また、対応の仕方についても定期的に職員で話し合っている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的な総合訓練以外に、毎月避難訓練を実施している。又、夜間想定訓練も実施している。地元の消防団に施設に来て頂き、立地状態、施設内を見学して頂いた。	併設する介護老人保健施設と合同で消防署立会いのもと夜間想定を含めた総合避難訓練を年2回実施するとともに、事業所独自の避難訓練を年8回程度実施しているが、避難訓練に地域の人々の参加を得るまでには至っていない。 避難訓練後は検討会を行い、実施記録を作成している。 災害時に備えて併設する介護老人保健施設に米や飲料水、缶詰め、懐中電灯などを備蓄しているが、事業所独自に備蓄するまでには至っていない。	災害時に地域の人々の協力が得られるよう、運営推進会議を活用して地域の人々に避難訓練への参加を呼びかけることを期待する。 災害時に備えて事業所内に米や飲料水、懐中電灯などを備蓄することを提案する。

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保  一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	年に一度プライバシーに関する研修を行い、親しみやすい関係の中にも尊重、尊敬する気持ちを忘れない様に指導し、特に排泄や入浴の際には十分配慮した対応ができるよう心掛けている。	職員はプライバシー保護に関する内部研修を受講するとともに職員会議で話し合い、利用者の羞恥心や自尊心に配慮したケアに取り組んでいる。 トイレ誘導は小声で話しかけ、利用者の状態に応じてトイレの外で待ったり、入浴支援の際には肌の露出を避けるため身体にタオルを掛けたりするなど、プライバシーに配慮した対応をしている。 個人情報に関する書類は事務所の書棚で保管している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援  日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入浴、レクリエーションなどの参加や時間帯、内容を利用者が決定できる様、配慮している。また、自己決定が困難な利用についても、できる限りコミュニケーションの中から本意を見い出せる様対応している。外食の際には、メニューの中から食べたい物を選んで頂いている。		
38		○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者のその日の体調や気分にも十分配慮し、入浴、レクリエーション、食事、午睡など本人の希望に合わせて対応している。気分や体調によっては布団で休んで過ごして頂ける様にしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴後、朝起きた時に鏡の前で髪をとかして頂いたり、自分で顔を洗ったりできる様、その人に合った支援をしている。朝は蒸しタオルを貸出しリフレッシュして頂いている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と一緒に食事をする事で、嗜好や食べやすさなどを把握している。刻みやお粥など、希望や能力に応じて提供している。食事の後はテーブルを拭いて頂いたり、履き掃除など手伝って頂いている。また、お菓子作りやミニ菜園、流しそうめんなど楽しめる様工夫している。	職員は利用者と同じ食事を摂りながら食事介助や声かけをしたり、利用者の好きな食べ物の把握に努めたりしているほか、食事の様子を観察しながら食べ易い形態の食事が提供できるよう努めている。 利用者は職員と一緒に手拭きたたみやテーブル拭き、食後の掃き掃除など、能力に応じた役割を担っている。 利用者の希望にそって刻み食や粥などを提供するとともに、お節料理やクリスマス会などの行事食、誕生会のケーキ、外食などを取り入れて食事が楽しめるよう支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	職員と一緒に食事をとり、食事量をチェックし記録している。水分量に関しては定期的にお茶等を提供し、十分に確保できる様にしている。飲み物についても、個人で好みが違うので、その方に合った物を提供している。いつでも飲めるようボトルを使用している人もいる。		
42		○口腔内の清潔保持  口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後には声掛けを行い促している。自分でできない利用者には電動ブラシなどで介助している。又、夜間は義歯の方は洗浄剤に入れて預かっている。		
43	16	○排泄の自立支援  排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	個別に排泄時間を把握し、必要に応じ声掛け、誘導を行い、トイレで排泄できる様に支援している。夜間はポータブルトイレを居室に置いたり、車椅子で誘導し、オムツをしない様に支援している。	職員は利用者一人ひとりの排泄パターンを把握するとともに、個人のリズムに合わせてトイレ誘導をしているほか、利用者の様子を観察しながら声かけをしてトイレで排泄ができるよう支援している。 現在は殆どの利用者がトイレで排泄ができており、泊まりの部屋にトイレを設置して排泄の自立に向けた支援をしている。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日適度な運動をし、排便を促している。施設と自宅で排便の有無をチェックし、記録、管理している。家族には手帳や口頭で排便の有無を伝えている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	利用者の体調を見極め、希望に沿って入浴を行っている。状態に合わせ、機械浴などを使用し、安心して入浴ができる様に支援している。又、できるだけゆっくり入浴して頂ける様、配慮している。楽しく入浴できる様、入浴剤やりんご・ゆずなどを入れることもある。	通いの利用者は午前中に入浴支援をしている。泊まりの利用者には毎日午後に入浴支援をしているが、利用者の希望や健康状態により2日に1回の入浴となっている。 事業所が高台にあるため浴室からの眺めが良く、四季の風景を見ながら入浴ができるほか、仲の良い利用者同士で楽しみながら入浴ができるよう支援している。 利用者の状態に応じて機械浴で対応したり、シャワーチェアを配置したりして、利用者が安心して入浴ができるよう支援している。 季節毎にりんご湯や柚子湯を取り入れ、入浴が楽しめるよう工夫をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	希望に応じ、午睡の時間を設けている。又、体調のすぐれない利用者にはゆっくり休める様にスペースを提供している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護師を中心に薬の確認・管理を行っている。薬の変更時には伝達し経過を観察する様になっている。薬の管理のため内服状況を書いた一覧を貼りだしてある。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	レクリエーションや趣味活動を積極的に提供、外に出る機会を増やし、気分転換をしている。又、洗濯物や新聞をたたんだり、植物の世話など、生活の中で役割を持っていられるようにしている。秋には町の芸術祭に趣味活動で作った作品を出品し、見学に出かけている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節の変化を感じられる様、施設の菜園の手入れをしたり、定期的にドライブ(りんご狩り・水族館・紅葉狩り・足湯温泉など)に行ったりしている。何か必要なものがあれば、買い物にも行けるようにしている。	年間行事計画を作成し、りんご狩りや紅葉狩り、常陸太田市にある親沢親水公園、近隣の大子温泉の中にある足湯温泉など、様々な場所への外出を支援している。 利用者は日常的に自家菜園の手入れをしたり、天気の良い日は散歩に出かけたりしており、職員は利用者になるべく戸外に出て、気分転換が図れるように支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出時に食事代を自分で支払ってもらったり、買い物と一緒にいくことで社会参加ができるよう支援している。日常にお金を使うことはないが、本人が安心できる額のお金を所持できるよう家族と話し合っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	趣味活動の中で作った和紙を使い、家族に暑中お見舞いや感謝の気持ちを書いた絵手紙を送ったりしている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感のある掲示物を一緒に作ったり、各行事の写真を貼ったりと工夫している。入浴時は脱衣室と浴室の温度差が少ない様配慮している。テーブルには自宅や施設回りでとれた花を飾っている。夏にはあさがおでグリーンカーテンを作っている。	居間兼食堂は天井が高く広い空間となっており、玄関に利用者と職員が制作したひまわりの張り絵を飾ったり、食卓に事業所周辺で採った花を飾ったりして、季節が感じられる空間となっている。 居間兼食堂から続く広い和室があり、職員は利用者が自由に昼寝ができるよう布団を敷くなどして、居心地よく過ごせるよう工夫をしている。 夏の強い日差しを遮ったり、涼しげな朝顔の花を眺めることができるよう朝顔でグリーンカーテンを作るなど、職員は居心地のよい空間づくりに努めている。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり  共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	椅子には自分の座布団を、枕には名前入りのタオルを使い、自分の場所を各自意識できる様にしている。又、テーブル席も座り慣れた場所で落ち着いて頂ける様、配慮している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	泊まりの部屋は、できるだけ自宅での生活と変わりが無い様、畳・ベッドと選択できる様にしている。使い慣れたものは持ち込んで頂き、落ち付いて過ごせる様にしている。タオルケットは各自用意して頂き、本人専用の物を使っている。	管理者は契約時に利用者や家族等に、宿泊する場合には使い慣れた寝具を持参してもらえよう説明している。 泊まりの部屋にはエアコンやカーテン、ベッド、チェストが備え付けられている。 フローリングと畳敷きの部屋があり、宿泊する場合には自由に選択してもらい、自宅とあまり変わらない環境の中で過ごせるよう配慮している。 利用者は泊まりの部屋に時計やタオルケット、枕カバーなどを持ち込み、落ち着いて過ごしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり  建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりや介助バーを必要な場所に取り付け、安全に配慮している。うまく場所を認識できない時は目立つように目印をつけたりしている。		

V アウトカム項目		
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者の <input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいの <input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいの <input type="radio"/> 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	<input type="radio"/> 1, 毎日ある <input type="radio"/> 2, 数日に1回程度ある <input type="radio"/> 3, たまにある <input type="radio"/> 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4, ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての家族と <input type="radio"/> 2, 家族の2/3くらいと <input type="radio"/> 3, 家族の1/3くらいと <input type="radio"/> 4, ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="checkbox"/> 1, ほぼ毎日のように <input type="checkbox"/> 2, 数日に1回程度ある <input type="checkbox"/> 3, たまに <input type="checkbox"/> 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	<input type="checkbox"/> 1, 大いに増えている <input checked="" type="checkbox"/> 2, 少しずつ増えている <input type="checkbox"/> 3, あまり増えていない <input type="checkbox"/> 4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	<input checked="" type="checkbox"/> 1, ほぼ全ての職員が <input type="checkbox"/> 2, 職員の2/3くらいが <input type="checkbox"/> 3, 職員の1/3くらいが <input type="checkbox"/> 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<input checked="" type="checkbox"/> 1, ほぼ全ての利用者が <input type="checkbox"/> 2, 利用者の2/3くらいが <input type="checkbox"/> 3, 利用者の1/3くらいが <input type="checkbox"/> 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input checked="" type="checkbox"/> 1, ほぼ全ての家族等が <input type="checkbox"/> 2, 家族等の2/3くらいが <input type="checkbox"/> 3, 家族等の1/3くらいが <input type="checkbox"/> 4, ほとんどいない



(様式4)

## 目 標 達 成 計 画

事業者名 小規模多機能型居宅介護ふれあいホーム虹の丘

作成日 平成25年12月5日

### 【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	1	災害時の地域の方との協力体制が確立していない	地域との災害時の協力体制の構築	地域の方に避難訓練や総合訓練に参加して頂く。災害時の協力についてマニュアルをつくりご理解を頂く。備蓄品の把握をする	1年間
2	2	利用者家族といい関係が気づけていると思うが本当に気持ち伝えて貰っているのか不安な部分がある	職員一人ひとりが家族とのコミュニケーション大切にし本意を言って頂ける関係にしていきたい	送迎時積極的なコミュニケーションをとりその報告と記録をとる。アンケートの実施	1年間
3	3	ターミナルケアについての知識がない	ターミナルケアについての知識をみにつけしっかりした対応がでるようにしたい	研修の実施 マニュアル等の見直し	1年間
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。